

# 拡大する東と西の境界

「日本」と聞いて、どれほどの地理的範囲を想像するだろうか。想像した現代の範囲と比べ、古代の「日本（7世紀後半までヤマト政権）」の範囲は遙かに狭かった。5世紀でようやく東は北関東、西は九州中部に達した。範囲の拡大は範囲外の人々の抵抗を伴い、日本は抵抗する人々を服属させることで、東と西の境界を拡大した。

## ○東と西への進出

### ●5世紀のヤマト政権の範囲

熊本県<sup>(1)</sup> \_\_\_\_\_ 古墳の鉄刀・埼玉県<sup>(2)</sup> \_\_\_\_\_ 古墳の鉄剣には、  
倭王<sup>(3)</sup> \_\_\_\_\_（ \_\_\_\_\_ 天皇）の名がある。

⇒5世紀のヤマト政権の勢力範囲は、おおよそ下図（色塗り部分）のように示せる。



また、『<sup>(4)</sup> \_\_\_\_\_』 \_\_\_\_\_ には次の文が載る。

「東は毛人<sup>もうじん</sup>を征すること五十五国、西は衆夷<sup>しゅうい</sup>を服すること六十六国、…」

⇒ヤマト政権は毛人・衆夷のような勢力範囲の外の者と争い、  
服属させて次第に勢力範囲の境界を東へ西へと広げていった。



図1 ヤマト政権の範囲（中心は畿内）

## ●東北への進出

ヤマト政権に属さない東国の人々「毛人」は、後に<sup>(5)</sup> \_\_\_\_\_ と呼称された。  
 ⇒ヤマト政権は6世紀以降も進出を続け、(5)を服属させていった。

孝徳天皇の御代647年に<sup>(6)</sup> \_\_\_\_\_、648年に<sup>(7)</sup> \_\_\_\_\_を設置した。

齊明天皇の御代658年、<sup>(8)</sup> \_\_\_\_\_を派遣して、  
 日本海側の(5)を服属させた。

712年、日本海側に<sup>(9)</sup> \_\_\_\_\_国を設置した。

⇒724年、<sup>(10)</sup> \_\_\_\_\_国に国府および<sup>(11)</sup> \_\_\_\_\_を兼ねる  
<sup>(12)</sup> \_\_\_\_\_を設置した。

◇(11) … (5) 征討のための役所

(5) 征討には「夷を以て夷を制す」の政策がとられた。

⇒780年、<sup>(12)</sup> 俘囚の伊治 皆麻呂に(12)を焼かれた。

◇「夷を以て夷を制す」…帰順した(5)で(5)を討つ政策

◇俘囚…8世紀以降に使用された、帰順した(5)の呼称

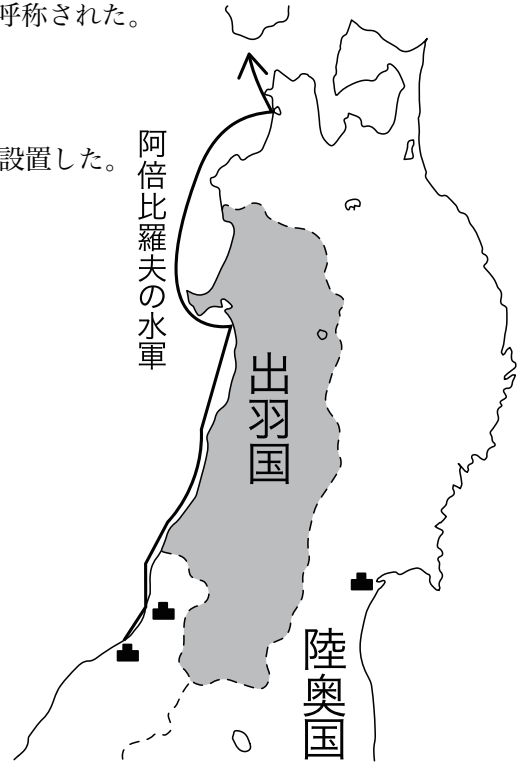


図2 東北進出

## ●九州南部の支配

熊襲(衆夷)は早くに服属し、ヤマト政権の勢力範囲は九州南部まで及んだ。

⇒服属した熊襲は<sup>(13)</sup> \_\_\_\_\_ と呼称された。

九州南部での律令の導入に対して、しばしば(13)が反乱を起こした。

⇒(13)の支配強化のため、8世紀初めに<sup>(14)</sup> \_\_\_\_\_国や<sup>(15)</sup> \_\_\_\_\_国が設置された。



図3 薩摩国(色塗り部分)



図4 大隅国(色塗り部分)